

ブラジルの金融市場動向 Weekly Report

2017年11月6日

【2017年10月28日～2017年11月3日までの推移】

【1】先週の回顧

先週のブラジル・レアルは、対米ドル、対円で下落しました。また、2年国債金利は上昇しました。

10月24-25日（現地）に行われたCopom（金融政策委員会）の議事録において、ブラジル中央銀行は将来的な利下げサイクル停止を示すガイダンスの提示を止め、経済情勢次第では2018年に追加利下げを行うことに含みを持たせました。

政治情勢につきましては、テメル大統領が治療目的で一時的に入院したほか、マイヤ下院議長から社会保障改革法案の早期承認に否定的な見方が示されるなど、社会保障改革の審議に目立った進展は見られませんでした。加えて、隣国ベネズエラで対外債務再編の要請がなされたこともあって、南米各国における政治不透明感が高まり、ブラジル金融市場は為替、債券ともに軟調な推移となりました。

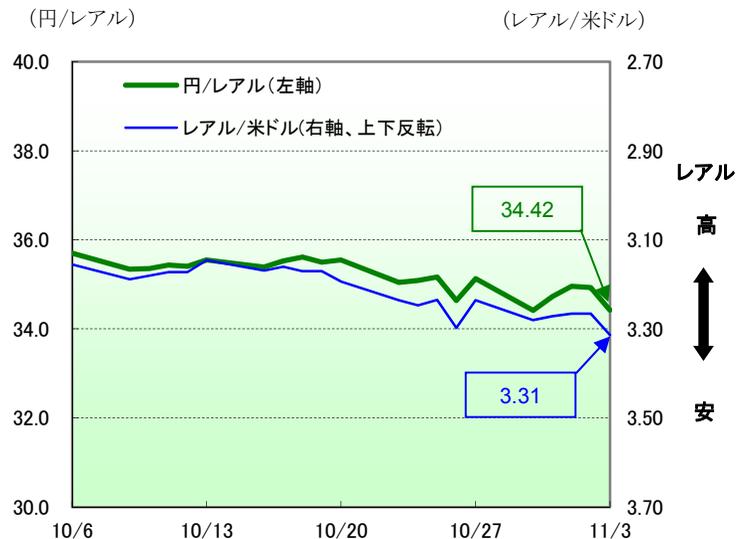
経済指標では、9月の基礎的財政収支が発表され、赤字幅は市場予想を小幅に下回る数字となりました。

【2】今週の見通し

経済指標に関しましては、各種インフレ指標の発表が注目されます。最も重要視されるIPCAインフレ率の市場予想は前年比2%台後半となっており、前月から小幅にインフレ加速が見込まれておりますが、依然として低インフレ環境に変わりはなく、12月のCopomにおける利下げの障害にはならないと考えています。

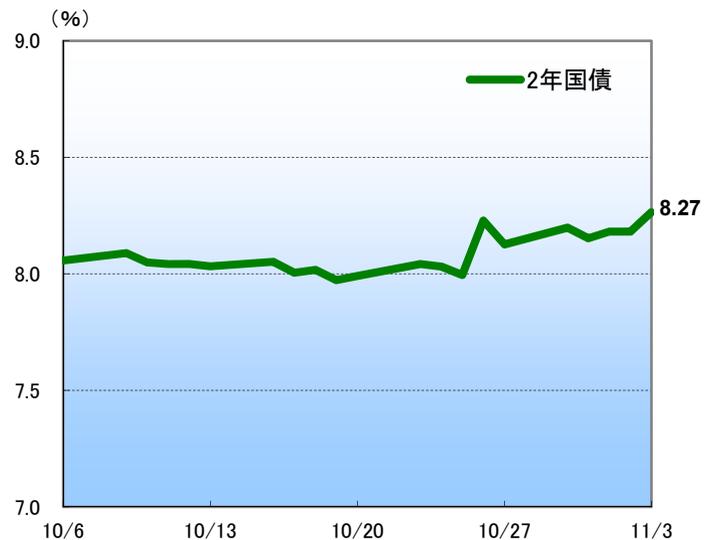
社会保障改革につきましては、今週も法案審議が行われる予定です。政府内にも年内の法案可決が現実的でないとの見方が出てくるなど、法案審議の遅れがブラジル金融市場全体の重石となっていることは否めません。しかし、今週はテメル大統領が本格的に職務復帰することが見込まれ、審議の進展が期待されます。大統領の政治的な求心力の低下から、社会保障改革には一定の妥協を強いられるものと想定されますが、いかなる形であっても同改革が進展することは、ブラジル金融市場の大きな下支えとなる見込みです。

【ブラジル・レアル 為替推移】(2017年10月6日～2017年11月3日)



※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。

【ブラジル 金利推移】(2017年10月6日～2017年11月3日)



(出所:ブルームバーグより大和投資信託作成)

当資料のお取り扱いにおけるご注意

- 当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。
- 当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。
- 当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。
- 当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託 フリーダイヤル 0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>